な事業（空き家・空き地バンク、協議会運営、交流人口拡大業務、指定管理事業など）を行っているという印象を受けました。

第１０分科会は、『まちびと巡りツアー』 が軸となった行程であり、様々なチャレンジ人に、各施設とあわせて話を聞く過密なスケジュールでした。

1. 古民家を改修し、民泊や出会いのきっかけを提供する、木戸の交民家（りきっど。）
2. ナラハチャンネルなど楢葉町やそこに住む人々に関する動画を配信している、ナラノハ
3. 震災当時の様子や事故に関する体験を語る、ふるさと案内人（語り部）
4. ゆず酒の製造など前に進む一歩を踏み出し、大学生と積極的に交流を図る、ゆず研究会
5. 大学生でありながら、現地で活動･交流をする、そよ風届け隊（立命館大学）
6. 津波被災を経て漁協を再開させた、木戸川漁業協同組合

また、未だ避難指示が解除されていない富岡町の地域や津波被災パトカーを見ることができました。東日本大震災直後のままの静かな町並みは、普段見ることのないなんとも言えない風景でした。

楢葉町が町民の様々な意見を取り入れ、平成３０年７月３０日にオープンした「みんなの交流館ならはCANvas」で行われた振り返りワークショップでは､『今回の行程で得た気づき、学び』､『これからどう生かしていくか』について、グループに分かれ意見を出し合いました。『今回の行程で得た気づき､学び』では､「３月１１日まで、どのような生き方をしてきたかによって、これからの生き方が変わる」という言葉､「コミュニティは作ろうとして作るものではない」､「まちづくりには“よそ者”“若者”“バカ者”が担うとうまくいく」という言葉、「（一社）ならはみらいの存在は大きい」などの意見がありました。『これからどう生かしていくか』では､「頑張っている人を見つけ､繋ぎたい」､「みんなが集まる場所、そこに行けば“誰か”いる場所の創出」､「コミュニティ再生。今つくっておくことで、これからに活きる」などの意見がありました。参加者から「活発な人とそうでない人との交流はどうしているのか」という質問があり、「これからの課題」という回答がありました。質問のとおり、今回お会いした人達は、（一社）ならはみらいと関わりのある活発な人であると思います。そうでない人たちとの関わり方

集合写真

や交流の方法などを知れればよかったと思います。

楢葉町が、予算的に厳しくなる状況の中、今後の事業をどのように継続していくかが課題であると話をされていました。まだまだ復興半ばという状況の中、楢葉町・（一社）ならはみらいが、今後どのように事業・活動を進めていくのかを気にかけたいと思います。

個人的に､特に印象に残ったこと箇条書きにすると､

1. フレコンバックが置かれている風景・帰還困難区域の風景。
2. 放射線測定器がたくさん設置されていること。
3. （一社）ならはみらいの職員の熱意。
4. 大学生なのに、すごい。
5. そよ風届け隊のＯＢが２名、（一社）ならはみらいにいること。（群馬県出身も）
6. 前回の福島大会の関係者、次回の兵庫大会の関係者の参加が多い。（前回大会での出会いのきっかけや次回大会の勉強のため。）
7. 参加者の意識が高く、元気な人が多い。

２日間を通して、現在の福島県、楢葉町を見ることができました。今回の福島大会に参加したことにより、以下のことについて実践できるように努めたいと思います。

まず、個人としてできることとして、全体会の挨拶にあったように、復興が進んでいる福島県の元気な姿を多くの人に伝えたいと思います。次に、福島大会での出会いを大切にしていきたいと思います。

最後に、行政としてどのように関わり・支援することが正解かわかりませんが、行政として支援するという意識だけでなく、自分で団体を立ち上げるぐらいの当事者意識を持つことも大事だと思いました。（職員でありながら団体活動をしている参加者を見習い）今回の貴重な経験を榛東村に戻っても生かせるようにしたいと思います。

第11分科会

いわき市

１日目	全体会会場出発	→	ホテルひさごで昼食	→	富岡町内 視察	→	常磐道にて移動 車内でワークショップ	→	分科会交流会	→	夜なべ談義 自由参加 ※参加費別途
２日目	宿舎出発	→	豊間・薄磯地区 視察	→	塩屋埼灯台発	→	平地区で昼食 まとめワークショップ	→	JR いわき駅		

永明地区地域づくり協議会　深谷 茂 さん

本大会は、平成３０年１１月１６日（金）～１８日（日）の３日間、福島県で開催され、分科会は全１１会場で、私は第１１分科会に所属し、いわき市内の会場で参加研修して来ました。本分科会は２４名の参加者と地元の支援者１６名のグループ（未来会議）で構成されていました。参加者は群馬（２人）､宮崎（１人）、石川（３人）､香川（５人）､滋賀（１人）､兵庫（２人）、沖縄（１人）､広島（１人）､東京（２人）､長崎（１人）、長野（２人）、岡山（１人）、熊本（２人）の各都県からの方々でした。

初日は全体交流会が開催され、参加者相互の交流の場として岡﨑会長、総務省から地域力創造審議官佐々木浩氏をはじめ、福島県やいわき市の方々（５人）が参加され、総勢約２００人ほどの交流会でした。分科会に分かれる前の交流会なので、多くの方々との交流ができ、有意義な企画でした。

２日目の第１１分科会いわき市のプログラムは、オリエンテーション・スタッフ紹介、参加者自己紹介の後、７年８ヵ月経過した富岡町内を視察し、震災のすごさを目前にし、一同言葉もなく慰霊碑に参拝しました。未だ帰宅困難地域の様子を目の当たりにしました。周辺は空家だらけという現況です。

分科会交流会は、地元の「じゃんがら演舞」を鑑賞しながら「夜なべ談義」に華を咲かせました。

オリエンテーション

３日目は、豊間・薄磯地区の視察参加や慰霊碑への参拝後、講話を聞き学習の一時を参加者みんなで共有しました。５棟２００世帯が入居している復興住宅の会長さんは高齢者世帯を低層階に入居できるよう配慮した思いやりの心などを切々と語ってくださいました。

塩屋埼大型灯台からの景色

現地研修として近くにある塩屋埼大型灯台・別名美空ひばり灯台・１等レンズ高さ３ｍ・航路標識（地上２４ｍ、海面から７３ｍ・初点灯明治３２年１２月１５日）を訪ねました。全国７００基以上の灯台中、内部頂上まで登れる灯台は１６基とのこと。塩屋埼灯台は登れることと、たまたま現職日本灯台協会会長が私の弟ですので、記念に１０３段の階段を登りました（有料）。その後、いわき市生涯学習プラザで分科会研修の学習総まとめをし、学習と研修の成果を確認して大会の締めくくりとしました。

今回の大会では、大震災後の現状を再確認して自然の驚異を実感しました。その証として「東日本大震災・原発事故の複合災害」を受けた「富岡町」の現状とを中心に「特定復興再生拠点区域再生計画」の概要と現状をつぶさに現地の状況を案内されました。貴重な機会に恵まれ素晴らしい学習ができ、これからの地域づくりの糧に活かしていきたいと思い、こころから感謝して報告とします。